



一燈照隅万燈照国

第1号

宮古島市章

所報:宮古島市立教育研究所 (TEL:0980-77-4955) 平成 25 年 4 月 12 日発行 所長 野原敏之

4月の行事予定

- 4月1日: 辞令交付式
- 4月4日: 初任研命課式
- 4月10日: 所内連絡会
- 4月11日: 初任者研修①
- 4月19日: 全県指導主事連絡協議会①
不登校問題対策11市連絡協議会①
- 4月22日: 宮古地区教育相談員等連絡協議会
- 4月24日: 全国学力・学習状況調査 (小6・中3)
- 4月25日: 所員会議
- 5月1日: 小中学校長連絡会議①

宮古島の教育目標及子ども像

宮古島市教育委員会では、「郷土の自然と文化に誇りを持ち、心豊かで創造性・社会性・国際性に富む人材の育成と生涯学習の振興」を基本理念に、次の4つを教育目標に掲げて教育施策を推進しています。

- 自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力と粘り強さをもつ幼児・児童・生徒を育成する。
 - 平和で安らぎと活力ある社会の形成者として郷土文化の継承・発展に寄与し、国際化・情報社会で活躍する心身ともに健全な市民を育成する。
 - 学校・家庭・地域社会の相互の連携及び協力のもと、時代の変化に対応しながら、結いの心を大切にしたい生涯学習社会の実現を図る。
 - 宮古の美しい自然を守り、島の未来を拓く新たな時代に対応できる創造性溢れる人材を育成する。
- 以上を踏まえ、「宮古の自然や文化に誇りを持ち、国際化時代をたくましく生きる創造性に溢れた明るい子」を子ども像に据えています。

いっとうしょうぐわんどうしょうこく

「一燈照隅万燈照国」の発刊について

教育研究所所報「一燈照隅万燈照国」を発刊することにしました。「一人一人が自分の役割を果たすことで、組織全体にその効果が広がる」という意味です。教師一人の研究が学校全体に広がって、やがて宮古島市全体の成果に繋がって欲しいという願いが込められています。月に2回程度発刊したいと思います。

さっそくですが研究所の職員を紹介します。

所長:野原敏之、専任指導主事:下地忠夫
兼任指導主事:松本 尚
適応指導教室指導教諭:比嘉公代
指導員:平良ゆかり、砂川 恵
教育相談員:平良勝也、立津和代
宮平幸子、久貝清順
一年間よろしくお願いいたします!

所長所信について

所長:野原敏之

初めまして!4月1日付けで宮古島市教育研究所所長を拝命しました野原敏之と申します。よろしくお願ひ致します。

さて、研究とは何をどのようにすることだろうか?「字通(白川 静著)」によると、「研=みがく、つまびらかにする、きわめる」「究=きわめる、おしきわめる、屈曲してきわめつくす」「研究=しらべつくす」となっています。

つまり、研究とは「見えなかったもの・分からなかったことを調べつくしてつまびらかにし、見えるように、分かるようにすること」であると個人的な見解も含めて考えています。

従って、宮古島市教育研究所の使命は、「宮古島の教育、特に学校教育に関する研究を行い、その課題解決に資する」ことだと考えます。川満教育長は宮古島の学校教育の課題は「学力向上と学校規模の適正化である」と明言しています。

学校規模の適正化については「学校規模適正化対策班」を設置して進めているので、研究所は「幼児・児童・生徒の自ら学ぶ意欲と学力向上に係る研究」を中心に据えていいと考えます。教師の指導力・授業力及学校力高め、自ら学ぶ意欲と学力の向上を図る研究、家庭における基本的生活習慣・生活リズムの確立等に係る研究を推進し、学力向上や問題行動・不登校など健全育成に係る教育課題の解決を図る道筋を示すことが大きな役割だと考えます。

そのためには、これまでの研究に加え、宮古島の教育課題から項目を指定した研究、研究校の指定等も合わせて考える必要があると思います。

また、もう一つの役割は研究成果の検証だと考えます。研究成果をどう生かすかどう成果を上げたのか、教師の指導力や授業力はどうかどう変容したのか等については調査研究が不十分だったのではないかと感じています。

このような状況を踏まえ、これからの教育研究所のあり方として次のようなことを考えています。

- 1 宮古島の教育課題に特化した研究教員の募集
 - (1) 学力向上を図る指導力・授業力の向上に係る研究
 - (2) 家庭学習習慣の定着に係る研究
 - (3) 基本的生活習慣及び生活リズムの確立に係る研究
 - (4) 校内研修の活性化を図る研究
 - (5) 健康・体力の向上に係る研究
 - (6) その他

- 2 宮古島の教育課題に特化した研究指定校の募集

(1) 1の項目等について学校全体で取り組む研究
まだ案の段階ではあるが、以上のような考えで研究に取り組む必要があるのではないかと考えています。

ところで、沖縄県は平成29年度までに児童生徒の学力を全国平均並に引き上げるとしています。当然、宮古島市もそれまでには全国レベルに到達しなければならないこととなります。

教育長裁量で使える一千万円の予算を有効に活用し、全学級の担任が自分のクラスの児童・生徒の学力を高める工夫をすることで、学校全体として学力の向上が図れると考えています。

終わりに、プロ野球のヤクルト、阪神、楽天等で監督を務め、ヤクルトを優勝に導いた野村克也氏の言葉を紹介します。

「組織はリーダーの力量以上には伸びない。リーダー自身が己をレベルアップできるかどうかはその組織の盛衰がかかっている」「進むべき正しい道を示し、あるべき姿に導いてこそ真のリーダーと言える」